

高津区おはなしアーカイブ

●岸 巖 (きし いわお)さん
昭和6年生まれ 84歳
川崎市高津区明津在住



◆ご家族のこと

本家は蟹ヶ谷のほうにありまして、祖父は嘉永4年（1851年）生まれ。農業のかたわら、街道沿いで煙草屋をやっていたそうです。父七郎は明治27年生まれで、ずっと農業をやっていました。母は一生懸命家業をやっていました。何しろ家族が多かったですからね。朝から大きな釜で米3升炊いてました。

兄妹は10人。当時兄妹が10人なんて普通のことでしたよ。上に兄が4人、私が5番目で、妹が2人、弟が3人ですね。

大きくなった子は下の子の面倒をみていました。私も妹や弟をおぶったりしていましたよ。

今は兄が1人、妹が1人、弟が3人で仲良くやっています。兄2人は戦争に行きましたけれど戦争からは無事に帰ってきました。

昭和32年、26歳の時に見合い結婚しました。妻は茨城の出身で、実家はやはり農家でした。子どもは2人で、息子が隣に、娘がその向こうに住んでいます。近くにいるので嬉しいですね。

◆学校のこと

学校は橘尋常高等小学校に通っていました。家から2.5キロ離れていて、通うのに子どもの足で20分くらいかかったかな。近所の者が15、6人ほど集まって集団で登校していました。大きい子が引率してね。

同学年には60人くらいいたかな。男の子も女の子も同じクラスでした。席は半分ずつに分かれてたけどね。4年生か5年生のころから男女別のクラスに分かれましたね。

音楽の時間には、“ふるさと”、“春の小川”などの唱歌をオルガンの伴奏で歌ってました。

運動会は盛大でしたよ。家族がお弁当持って、筵もって皆で応援にきてくれました。一等賞になると鉛筆とかノートなどの学用品を賞品にもらえました。

遠足もありましたよ。羽田の方へ潮干狩りに行ったりしたなあ。多摩川の河口のと

ころね。アサリが20個くらい採れたっけな。(笑)

一年生のころは着物を着ていましたね。履物はゲタでした。でも6年生の写真では洋服を着ていたから、多分靴を履いていたと思いますね。

皆仲が良くてね、今でも2か月に1回くらいは会って食事会してますよ。

◆先生のこと

僕らの先生は恐かったです。兵隊に行った先生でね、学校でも恐いと評判の先生でしたから。(笑)

皆で騒いでた時に廊下に立たされてね、クラス全員がずらーっと、隣の組の前まで並ばされてビンタですよ。(笑)

でもねえ、同期会で先生の話になったら、皆「いい先生だったなあ」ってしみじみ言うんです。うん、いい先生だった。そう思います。

一昨年には先生の墓参りに行きました。お墓は多摩市にあるんです。もう僕らも歳だし、ちょっと遠いからね、行けたのは3人でしたけど。

◆高等科のころ

尋常高等小学校には高等科が2年あったんだけど、入学した4月から終戦までずっと学童動員で、新城にあった中島飛行機に行っていました。その時の教科書は持っていたのかなあ…。とにかく勉強はろくにでき

ませんでした。でも卒業はできましたよ。卒業式もあったし。

弁当はたいてい麦飯でした。麦5：米5くらいのね。たまに白いご飯の弁当を持ってくる人もいたけど。弁当は自分で詰めましたよ。御飯に梅干しとか鮭とかを1品、そんなもんでした。

◆遊びのこと

毎日走り回っていたね。鬼ごっことかかくれんぼとか。ボールを使う遊びはしていないよ。ボール持ってなかったしね。野球なんて知らなかった。(笑)

お正月にはやはり凧揚げやコマ回し、女の子は羽根つきで遊んでいました。

夏には矢上川で泳ぎました。子母口の上流のほうは深くって大きい子しか泳げなくて、小さい子は下流の方でパチャパチャやってみました。

魚やウナギも捕れて、網を持って捕まえに行きました。捕まえるのは兄たちで、僕はもっぱらバケツ持ちだったな。(笑)

雪の日は小鳥を捕まえたりもしましたね。たいていスズメですけどね。竹かごに紐をつけた棒でつかいして、鳥がカゴのところに来たら紐を引っ張ってカゴの中に閉じ込めるという原始的な仕掛けです。(笑)鳥が来るまでじーじーっと待ってるの。めったに来やしませんかね。(笑)

それでもたまに捕まえられることもあるんですよ。捕まえたスズメを内緒で飼ったら母親に叱られちゃいました。(笑)

裏の家でよく集まって遊びました。その家だと叱られなくて、子どもを歓迎してくれたんです。

もちろん喧嘩をしたり、誰かをからかったりもしましたよ。喧嘩は強い子が勝って弱い子が負けて、それでお終い。そういうもんですよ。でも仲は良かったの。(笑)

近所に同級生がいっぱいいて、楽しかったよ。

おやつは、サツマイモやトウモロコシ、それに玄米パンってのをうどん粉で焼いてくれたこともあったなあ。

◆お正月やお祭りのこと

お正月には少しだけお年玉をもらってました。ちょっとした品物、例えば文具とか衣類とかですが、そういうのに添えてね。金額は何銭って額ですよ。それで凧やらコマやらを買ってました。

お雑煮は小松菜、人参、竹輪、ナルト、切り昆布などを入れた醤油味で、餅は伸餅を四角く切ったものでした。僕は雑煮を作るのがうまいんですよ。(笑)子供たちに教えてやったりしてるんです。

熊野神社のお祭りの時には必ずお赤飯を炊いてました。

青年会の人たちが素人芝居をやってくれたりして、面白かったです。昭和61年から御神輿も練り歩くようになりました。

よそのお祭りには旅芸人が呼ばれることがあったけど、うちの方のお祭りには呼ばなかったから、よそのを見に行っていました。(笑)

◆戦争のこと

B29が頭の上を通ったのをよく覚えてます。すごく低いところを飛んでいて、焼夷弾が落ちてくるのなんかも見えてました。

中原の方で、防空壕の中で一家が亡くなったなんて話も聞いていたので、防空壕に入るのも恐くってね。家族は防空壕に入っていたけど、僕だけ畑にいました。

この近くだと、専念寺とその周りの何軒か、当時の町会長さんの家もですが、焼けてしまいました。

農家は米を供出さなくちゃならなかったでしょう？収穫できなくても決められただけ出さなくちゃいけないから、そりゃあ厳しかったですよ。イモとか雑穀とかがあったから、何とか凌げたわけですけどね。

学童疎開は来たことがなかったな。親せきのところには来てましたけどね。

◆地域の様子について

明津は、当初7～8世帯だったんです。各世帯から1人ずつ参加して消防団を組織していました。我が家からは父が参加しておりました。これがその時の写真です。



(昭和8年頃の明津消防団員)

この家の庭に井戸があるでしょう？あれはお祖父さんが隠居するために蟹ヶ谷からこっちに移ったときに掘ったものなんです。でももともと地下水が豊富だったわけじゃないから、干上がってしまってね、水が出なくなった。それでこの地域は早くから水道が引かれたんだよ。僕が12、3歳のころから水道だったね。

明津は米作りが主でした。周りは田圃や畑ばかり。畑では白菜、小松菜、人参、大根、それから麦も作ってましたよ。

水は用水から引いてたんだけど、何しろ下流だからね、大変だった。草を刈って水の通りが良くなるようにしたりね。

夜だといくらか水が溜まりやすいつてんで、そういう水引作業は夜にやるんだ。蚊がいっぱいいるから蚊よけに南京袋を被ってた奴もいたよ。(笑)

そんなにしても水はチョロチョロとしか出なくて大して溜まらないんだもの。水引作業は辛かったなあ。

買い物は、千歳屋とか末長屋って店があって、たいていどちらかに行ってたよ。

◆仕事や趣味のこと

ずっと農業を手伝っていましたが、23歳の時から布団綿を作る仕事をやるようになりました。兄の伝手があったんでね。

インドやパキスタンから原綿を輸入して、それを加工して布団屋などに出荷していました。今は弟が引き継いでいます。弟は布団屋をやっていたんですが、今は綿加工と布団と両方をやっています。

農業はもうやっていません。畑も処分しちゃいました。

釣りが好きだったんでね、40歳の時に船舶免許を取って、暇を見つけてはずいぶんあちこちに出かけました。弟が1級船舶の免許を持っていましたし、一番遠くは大島まで行ったかな。50センチ以上あるような大きな獲物を釣ったこともあるんですよ。

実は10年前に脳梗塞をやりましてね、それ以来出掛けなくなりましたけど。でもね、その前にずいぶん楽しんでおいて良かったなって思ってます。



(所有していたクルーザーと釣り仲間達)

おかげ様で今は元気になりました。尻手黒川線ができて以来、交通の便も良くなりましたし、生まれ育った明津で子どもたちや旧友が身近にたくさんいて、時々一緒に飯食ったりして、幸せだなと思っています。

(平成28年7月7日取材)